

保健主事(体育科)

小田 成一先生



幼少期

体が小さく病弱で、ケガも多かった。趣味は読書にパソコン!小学生の頃、頭に謎のハゲが出来て、近所の病院や神社のお祓いに通う。「頭の使いすぎだ」と言われて、大好きな読書も禁止されたが、実は目に水が入るのが嫌で、シャンプーを洗い流していないだけだった。

教師としてのあゆみ

市内の中学校で「生徒指導推進員(講師)」として勤務したのが、教師としてのスタート。失敗ばかりで教師をあきらめようかとも思ったが、すばらしい校長先生との出会いに恵まれる。

以降、卒業生を送り出していく中で、御礼や挨拶に来てくれる卒業生たちとのふれあいを通じて、教師としての喜び、充実感を得るようになる。と同時に、「支援を必要としている生徒」に真摯に向き合う姿勢・心と体のケアの重要性、教師としての責任を痛感する。



- プロフィール**
- 岡山県岡山市生まれ
 - 中学時代は陸上部(長距離選手)
 - 高校・大学時代はバスケットボール部(某漫画の影響)
 - 大学・大学院を北海道で過ごす(奥様と出会う)
 - 高校生・中学生・小学生4人の男の子の父
 - 趣味はスポーツ観戦
今は忙しくて、休日はひたすら寝ている。
 - 岡山大学附属中学校2年目

遊んでいるように見える体育?!
・・・それが狙いなんです!



大事なのは

「できる感」!!!

生徒たちにいつも言っているのは、「**体育を楽しむ**!」ということ。

日本人は、まじめ気質で「体育を上手くなるう! 速く走ろう」と考える傾向が強い。しかし、大切なのは、上手く出来なくてもいい、まずは「やってみること」。なんとなく「できた!」を実感できれば良いと思う。大人になってもスポーツに親しむ習慣を持つためには、「スポーツを楽しむ」体験が必要。「楽しい」が一番に欲する体育の時間を積み重ねて欲しい。

大学との連携

大学とのコミュニケーションも欠かさない。大学の先生方とのミーティングを重ね、指導に生かすとともに、研究にも協力している。

レジリエンスを高める「体育」

現在取り組んでいる研究のテーマ。体育の授業の中に「遊び」を取り入れることで「ストレス」からの回復力を高めていくという試みを行っている。

2年生の1学期の水泳授業では「ダンス」「シヌノーケル」「ボール」を取り入れる等、自由に遊ぶ時間を取り入れた。

レジリエンス (resilience) とは

「弾力」
「復元力」
「元気の回復力」という意味。
心理学的な意味では「困難な状況にもかかわらず、しなやかに適応して生き延びる力」
その内容は「困難な状況に遭遇しても、感情を乱したり落ち込んだりせず、自分の感情や行動を制御し、相応な時間内に落ち着くことができる」ことであり、弾力性のある心、打たれ強い心、回復力のある心と定義されている。

附中生へのメッセージ

附中は、すでに力を持っている子供たちが集まり、生徒たちの「自主自律」を重んじられる体制が整っている。教師も一歩進んだ学習に取り組むことが出来、とても恵まれた環境にあるといえる。だからこそ、附中生に身につけて欲しいのは「**生き抜く力**」。これから先、困難や不測の事態が待ち受ける社会に出た時、自分で対応していきける力を身につけて欲しい。体育はそもそも「失敗」や「挫折」を何度も繰り返し経験していく教科。これを学習、経験していく中からぜひこの力を身につけて欲しい。「失敗」を恐れず、体育を楽しんでください!